

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292300017		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホームあんしん勝浦上植野		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	平成 28 年 3 月 18 日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成28年 3 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>トイレで排泄可能な利用者のオムツ、パッド、リハビリパンツの撤廃。 四季を感じる思い出作り。</p>
--

<p>「事業所と地域とのつきあい」では、全市の行事となっているビッグ雑祭りや、上植野のコミュニティーセンターへ飾られた段飾りを見に行き地域の人と触れ合い甘酒の接待を受けている。また地域のボランティアの支援を受けて実施した夏祭りでの落語には大勢の人が集まり利用者共々楽しんでいる。 「市町村との連携」では、空き室が生じたときや、独居者が入居し市営住宅の返還が必要になったときなど、こまめに窓口に出向き相談している。また市からの生保関係者の受入れ等の問い合わせについては誠実に対応し協力関係を構築している。 これらに見られるように事業所は「地域との連携の中で和の心をもって」運営されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を地域との連携の中で和の心をもって確立すること」という法人理念を掲示している。	理念は職員に理解され、利用者の尊重や安全確保に結び付いている。美しい生活の場を創るため臭いに配慮し衛生面や清掃に力を注いでいる。また住民とのコミュニケーションを密にし地域との連携の礎を築きつつある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶をしてコミュニケーションを取るようにしている。地域のイベント事に参加させて頂いている。	全市の行事となっているビッグ雛祭り、上植野のコミュニティセンターへ飾られた段飾りを見に行き地域の人と触れ合い甘酒の接待を受けている。また地域のボランティアの支援を受けて実施した夏祭りでの落語には大勢の人が集まり利用者共々楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できるように、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長さん始め地域の方、市役所管理健康課の職員にて意見交換を行っている。	市の係長、上植野地区の区長、区長代理、地区の婦人4名が参加し開催している。利用者の入居状況、行事等を報告の後、夏祭りでの落語等について意見交換がなされている。次回からは家族の参加も予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護課の担当者に相談に行っている。	空き室が生じたときや、独居者が入居し市営住宅の返還が必要になったときなど、こまめに窓口に出向き相談している。また市からの生保関係者の受入れ等の問い合わせについては誠実に対応し協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室、窓の施錠をしているが対応策を検討中である。	職員には資料等を用いて身体拘束をしないケアを周知している。夜中に居室の高窓を開け、外へ出て警察に保護された事例があったことから、窓は全開しないようにしている。外は車の通りが激しいが、日中は玄関を開錠し、居間や事務所で注意深く見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員に教育するとともに資料等を活用し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば出席させたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に訪れた利用者家族に対して近況を報告し、意見要望を聞いている。	診察時の付添いは家族に依頼しているが、住居が遠方等の事由から、職員が付き添うケースが増え、家族等の意見を聴く機会が減っている。今後は夏祭り等への参加を促し面談の機会を増やして行きたい考えである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体での意見交換は行われていない。	申し送り時に職員の意見や提案を聞いている。また代表が来所する折に個別に面談し直接職員の意見を聞き運営に反映している。事業所全体の意見は月に一回茂原で開催する管理者会議で発表し、改善を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情から安心を感じられるように心がけ要望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のなじみの方も面会に来られるので、職員が良い関係を築けるよう努めている。	遠方の家族が多く来訪は少ないが、近隣に住む親戚の人が立ち寄ってくれるケースが多い。それらの人達には出来るだけ長く居て貰う。また職員が診察に付き添って行く際には海を眺めたり一緒に食事をしたりしている。利用者は気分転換になり食欲も違う。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を見ながら配慮している。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように努めている。	入所時のアセスメントや家族からの意見要望を聞き、把握しているが、家族は「お願いします」というパターンが多い。本人の思いはそれとは違うケースもあり、日常の行動や表情、会話からくみとり、ケース記録も参考にしながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勧めて様子を見る等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の提案、アドバイスにより本人と家族の求める介護計画に近づくように作成している。	ケアマネージャーは複数事業所を兼務しており、週に一度の来訪で、家族の思いと実情を埋める為のアドバイスをしてくれる。ケアプランの見直しは3か月に1回モニタリング会議の中で一人づつ行っている。	ご家族との面会は管理責任者が行うが、ケアマネージャーにも面会の機会を作って頂くことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが密になるように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。	協力医へは月に1回通院の支援を行っている。現場の職員が同行することが良いと考え、人を増やしても実施していく予定。服薬支援は、飲み忘れや誤薬を防ぐことはもちろんだが、主治医の指導の下、減らす努力も怠らない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が非常勤であるため、気づき、情報は取りまとめて報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とコミュニケーションを取れるようにし退院後に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時及び終末期の対応確認書をいただいている。看取りについて職員の教育は十分とはいえない為、今後も取り組んでいきたい。	この一年看取りを行うことは無かったが、福祉サービス事業所内でのターミナルケアが見直されている中、喀痰吸引の研修などに参加しながら職員への教育は行って行くつもりである。特に老衰により死に至る場合への対応が重要である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師或いは系列法人の看護師と常時連絡が取れるようになっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力をいただき、定期的に避難訓練を行っている。職員個々の意識を高めるように努めている。	毎年、4月と12月に、消防署立ち合いのもと行う訓練と、防災の日がある9月には自主的に訓練を行っている。職員の役割分担により避難誘導が出来ることを目的とする。日中、夜間共に想定したマニュアルは出来ている。	ライフラインが止まった時を想定した、非常食、備品等の用意と、地域住民への呼びかけ、訓練への参加等を期待する。

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけ、対応が不十分である。職員が共通の認識を持って対応できるように促している。	職員は法人に対し、個人情報の取り扱いについては誓約書を提出している。日常のケアの中では、業務の前後にチェックシートにて確認を行っており、まず感じたところから、何がいけなかったのかを反省点としてチェックしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに気配りを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握できるように努めている。その方の出来る範囲でお手伝いをお願いしている。	食材は外部業者より調達しており日々のメニューも決まっているが、味噌汁作り等は利用者の手伝って頂いている。時に、食べたいもののリクエストがあれば、特別メニューに切り替えることもある。特に、敬老の日や、利用者の誕生日などは意識して行う様に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の宅配サービスを利用している。メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回、歯科医院の訪問診療を受けている。一人でケアができる利用者は時間がかかっても声かけ、見守りの対応をしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンでトイレ誘導をしている。現在、トイレでの排泄が可能な利用者はオムツ、パッド等を使用していない。	現在9名中6名は日中オムツは使わず、声掛けで対応が可能な状態である。利用者一人ひとりのサインは職員全員が把握しており、さり気ない誘導と、失敗した時にも周囲に気付かれないような手早い対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間はある程度決まりがあるが、入浴順等はその時の利用者の状況で対応している。	週3回の入浴を二つのグループに分けて支援をしている。時間は午後からにして頂いている。入浴を拒む方に対する対応も、職員の連携により、安心できる言葉掛けを行い、急かさず、何度も繰り返し行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備している。室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物たたみ等をお願いしている。歌を歌ったり気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族が可能な限り、外出についてご協力をしていただいている。利用者の希望にそって買い物に同行している。季節を感じられるよう、地域のイベントに参加し交流を計っている。	事業所に面した道路は、交通量が多く危険な為、日常的な散歩外出は、ウッドデッキから中庭に出る程度にしており、病院の帰りに外食をしたり、ご家族の対応が可能な限り同行して頂き、食事や、買い物を楽しんで頂いている。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりができるように支援している。困難な方には職員が手紙を代筆するなどして対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中くつろいで過ごされているリビングに、季節の花々を生け季節感を、目で楽しんで頂いている。	利用者は日中、リビングで過ごすことが多く、清掃、除菌は欠かさない。散歩外出時に採ってきた草花を飾ったり、みんなで一緒に作った押絵や切り絵等も飾り、話題を提供出来るように心掛けている。その他の共用空間も清掃が行き届いており、来客にも配慮されている事が良く感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの利用者が過ごすリビングにはソファや、畳のスペースを設ける等して利用者が自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、入居するまで使用していた品を持ち込んでいただいている。	ベッド、収納、エアコン、カーテン、照明は事業所でセットされており、それ以外の馴染みの物は持ち込み制限は行っておらず、ご自宅の延長でゆつくりとくつろげる場所として提供されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全なバリアフリーではない。声かけと見守りに対応している。		